十二月二日替り
マキノ映畫特作品
月形龍之助、マキノ輝子主演
連續時代劇 **愚戀の巷** 第一篇十一巻

帝キネ　濱田、小島、瀬川倭文子、直子、貞子共演
現代喜劇 **青春の歡喜** 全巻
帝キネ秘藏の大超特作品會社所屬俳優一統大努力出演
武士道の精華 **忠臣藏** （全十二巻）全部台詞説明

有聲座

看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會 電話三〇七番

平町紺尾町（縣社通り）
美味評判 **イワキ食堂** はやくしろまる
オの部電話四六〇番

玩具　平一丁目
森下商店
糸類　まめ屋

廣告

◎小兒科一般
◎内科一般（特に肺、肋、腹膜、十二指腸虫、胃腸病、リヨウマチス、神經痛、男女性病）
◎皮膚花柳病科
◎血液檢査
◎外科
◎婦人科
◎耳鼻咽喉科
特設
◎動脈硬化症及中氣、肩こり
◎血壓檢査

●診療時間　午前宅診　午後往診

◎診察料　無料
◎藥價　大人一劑　一日分　金十七錢五厘
小人一劑　一日分　金十二錢五厘

診療主任醫　池田次郎

入院應需

平町實費病院

平町郵便局裏通
電話五五一番

常磐毎日新聞

十二月二日夕刊

定價　一部金貳錢　一ケ月卅錢　郵税五厘
廣告料　（五號十二字詰一行）五十錢
休刊日　毎月一日　日曜大祭日
福島縣石城郡平町長橋町三五　發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
日刊　發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
本社ト同番地（電話六三〇番）　印刷所　常磐毎日印刷所

常磐論壇

政治に禍さゝる經濟

田中五郎

（二）

昔、戰國時代には爭覇の犧牲となつて國主の娘などが政略結婚に利用された。立派な意志をもち、立派な自由を持つてゐる筈の人間の娘一人が父の野望の犧牲となつて敵の所へでも嫁入りをした。父はそれでもよかつたであらう。父はそれで自分の利益にはなつたであらう。野望も滿たされであらう。しかし娘こそ災難である。自由を奪はれ、自分の心にもない國へ押やられて一生を棒にふつてしまふものも多かつた。中には戰國の傲ひとして父と嫁入先との平和が破れて、自殺してしまつた娘もある。私は今日の政界と財界を見て戰國時代の父と娘の樣ないやな氣がして來るのである

憲政會内閣は名藏相濱口氏によつて財界の基礎の堅實が期せられた。しかるに本年になつてから加藤首相の死後の政情の動きによつて濱口氏藏相の椅子を去り早速氏爲す事なくして逝き片岡氏が其のあとをつぐにいたつてから政界動搖の余波は忽ちにして憲政會從來の方針を豹變して、十五年下半期から年末にかけての政府の經濟政策は一言にして云へば人氣取りに終始した、國民經濟上今日の財界の地位がいかに重大なものであるかと云ふやうなことは第二義の事となつて先づ第一に憲政會の將來の爲めにいかなる人氣策をとつて置くのが大切であるかと考へるやうになつて來た。誠に以て悲しむべきことである。經濟界は日本の經濟界であつて憲政會の御都合の爲めの經濟界ではない。しかも政府は實權を握つてゐる。いかなる政策をとられても致し方がない。こゝに戰國時代の弱い娘の悲しさと寂しさがある　（つゞく）

夫婦になれぬを悲觀して毒藥自殺

男は屋根職、女は酌婦

箕輪村迄逃げのびて　奥の間で服毒

平町長橋町屋根職工大谷慶藏（三）は石城郡湯本町字笠井飲食店志賀ツネ方酌婦同郡錦村大字中田生れ鶯チヨ（二五）と共に去る廿九日午後七時頃同郡箕輪村大字大利字大利前遠藤勇方に止宿し卅日午後十時頃情死せんと猫イラズをのみ自殺せんとしたるを家人が發見早速醫師を招ぎ手當を加へたので生命は取り止めたといふ

どうせ添はれぬ仲　なればと……

酌婦チヨは大正十一年九月頃湯本町志賀方に前借五百卅圓にて抱られ慶藏とは三年前より知り合つて割りなき仲となつたが慶藏には落籍する丈の力なく夫婦になれぬを悲觀した結果兩人諜し合せて逃走し慶藏が屋根葺きを爲した關係から知り合つて居た前記遠藤方に一先づ潜伏したのであつたが慶藏の實兄大谷健一郎や其他追手の爲めに懇々説諭され　どうせ添はれぬ仲なればと遂に情死を決したものであると

情死……前後の模樣

情死前後の模樣を聞くに兩名共に説諭されてからよく解つたから夫れでは二人が最後の別れを告げんと其座を外し奥の一間に至つて服毒したるものにて二人が元の座に仲々戻らぬ處から不審を抱いた同家の者が來つて覗くと兩名共七轉八倒の苦悶中であつた爲め大騒ぎとなり應急手當が早かつたので生命を取り止める事が出來たのであると

何等かの機關を設立

賣出し其他を妥協的に行ふ

年の瀬押つまるに連れ決濟期を控へての平町商業は幾分活氣を呈しつゝあるが一部に在つては昨年來の疲弊困憊に鑑み市制計劃さへある大平町百年の大計を樹立すべく商業會議所迄には至らぬとしても之に准ずべき何等かの機關を設立し以て資金其の他賣出し等についても妥協的に行ふべくよりより協議中である

演奏會決算

上原氏主唱の

這般開催された上原眞佐喜氏主唱の訓盲院寄附慈善三曲演奏大會の決算に依れば總收入金は五百五十五圓六十錢であつて總支出金は七十九圓八十三錢五厘であるが其内譯は左記の通りであると

△廿五圓、印刷費△卅六圓四十九錢、會場諸費△七圓、辨當代△八圓卅七錢五厘、琴屋への禮其他雜費

米穀の需給狀態

石城地方の昨今の移動

石城郡地方に於ける米作の收穫は殆ど終りとなり市場で取引されてゐるのは何れも新米であるが石城郡を中心として昨今の米の移動を見ると

縣外に　移出する白米は一日平均百俵四十石でこれは何れも茨城縣の炭礦に送り出すものであるがこれと反對に移入の方は一日五十俵以上に達して居る、これは酒の造り込む期節になつたので本縣内の會津、中通り方部から並びに岩手縣の水澤方部から

酒造料　として送られて來るもので石城郡一圓の酒造米が一ケ年に釀造する米の量は平均二萬五千石であるからまだ〳〵移入は增加して來るが、新米が多く市場にあるため大した相場に變動はなく玄米一俵十三圓位で取引されて居るが冬期間は何うしても移入より移出の方が多い由である

平驛と平署ポカン

小荷物拔荷の眞相判る

石城郡平窪村大字鹽谷矢吹與助妻りえ（四七）は去月二十四日東京目黑驛積出し平驛までの無賃小荷物一個の中に入て置いた土産物價格約四十圓が途中何者かに拔き取られた旨届け出たので平署ではその後鐵道側と協力して取調べ中だつたが、右土産物は東京で出荷の際全く入れなかつたのであつたと申譯もありませんと一日りえが平驛に申出でたので平驛も平署も氣拔けの体でポカンとしてゐる

古河所長榮轉

後任は足尾から

石城郡好間村古河炭礦々業所長杉本五十鈴氏は今回日光發電所に榮轉した爲め後任者は足尾銅山より大野十郎氏が着任したと

釀造組合總會　石城郡釀造組合にては二十八日午前九時より平町住吉屋本店に於て幹事會を開き同日午後一時より總會に移り大正十四年度の決算報告で盛會であつた選擧の結果組合長に山崎與三郎氏副組合長に矢吹豐氏當選せり

あけぼの創刊　石城郡磐崎村大字下湯長谷あけぼの會の川柳雜誌『あけぼの』は卅日付にて創刊號が發行された

内郷でも小火　石城郡内郷村宮字仲平一四酒造業四家又一氏方自宅裏酒藏の屋根から卅日午後一時發火したのを家人が發見消し止め大事に至なかつたが原因は同家煙突の飛火と判明した

寄せなべ

材料鳥肉三十匁、芝エビ三十尾、竹輪五分の一、銀杏五勺、うどか、くわゐ、椎茸、其他何でも好みの物を少しづゝ集めたもの、鳥肉は薄へぎ切り、エビは皮をむき、竹輪は薄く小口切りとし、うどは厚く短冊切りとして水に浸し、くわゐは皮をむきゆでて置きます。椎茸は、水につけてから石づきをとり、よく洗つて置きます。用意ができましたら、鍋に材料を體裁よく並べ入れ、煮出し二合に、お砂糖をサジ一杯ほど入れて醤油をさし、煮ながら喰べるのであります。三つ葉を入れますと大そう香がよくなります。そして材料は煮ながら、追々入れてもよろしいです。これからお寒い時などには至極結構であります

炭礦活氣付く

年末と需要期

常磐地方の各炭礦は不景氣の中にも需要期になつたのと歳末が迫つて來るので日增しに活氣を呈してゐる磐城炭礦本年三月から九月までの半期出炭量は五十四萬七千九百十九噸で下半期は需要だけに八十萬噸は下るまいと見られてゐる

泉村のメロン成功

千圓の純益

石城郡泉村溫室メロン栽培は昨年志賀澤之助、吉田善八の兩氏各二十坪の溫室に栽培して頗る好成績を得たが製產品は東京に送つた結果土質關係から品質頗るよいと賞讃され年三回から四回の栽培で一千圓以上の收入を見る事が明かになつたので志賀、吉田の兩氏は更に溫室を增築して栽培に氣込んでゐるが吉田善八氏のものは今五日内外で開花し來る一月末二月上旬頃は賣出さるゝ程度になつてゐる

實費病院新設　平郵便局裏通りに平町實費病院が新設された主任醫は池田次郎氏で藥價一日分が大人十七錢五厘、小人十二錢五厘であると

湯本役場

燒失の損害

約千八百圓

昨報湯本役場燒失の損害は約千八百圓であると

平町の

細菌檢査所

愈新築に決す

平町の細菌檢査所は現在獨立した廳舍を持たず平町鎌田遊廓内縣の治療院内に併置されて居るがいよ〳〵傳染病隔離病舍附近に新廳舍を建設する事となり來る四日縣土木課に於て工事の公入札を行ふ由であるが傳染病が間斷なく發生しこれに恐怖されてゐる町民は細菌檢査所の設立を非常に期待してゐると

平に

乾繭倉庫

補助の陳情を

石城郡販賣利用組合では常磐線四倉驛前に繭市場を設け乾燥設備までしたがこの程役員會を開き協議の結果乾繭設備を一層有効にするため明春までに平驛前へ乾繭倉庫を建設に内定目下出資者の增加をはかり石城郡駐在尾形農林主事が各町村へ出張勧誘中で廿九日農商務省より原蠶糸課事務官來平販賣組合視察を機とし右設備に對する補助の陳情をなした

大森家の不幸

本縣農工銀行頭取白井博之氏令弟大森鎮平氏養父大森長右衛門翁は過般來病氣中の處廿九日午後七時長逝葬儀は今二日午後二時石城郡小川村の自宅出棺同村安養寺に於て佛葬執行したと

平町人事

▲出生

△月見町二七　渡邊寅次氏二女八重子

△彌宣町六八　橋本勇氏長女トシ子

▲死亡

△鎌田町一七　今藤菅（二〇）